

2025年度(令和7年度)学校評価自己評価表

城北中学校区	校番 2	福山市立城北中学校
最終更新日		2026年(令和8年)2月9日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校校区で連携を深め、共通の取組で成果をあげている。各校の目標が達成できていないものについては取組の進捗状況を細かく把握し課題克服に向けて PDCA サイクルに則り実践する。	児童生徒の現状 全国学力調査の結果、福山市の平均正答率を上回ることができたものの、正答率40%未満の生徒の割合は少なくない。また、不登校児童生徒も少なからずいる。	育成する資質・能力 めざす子ども像(義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	主体的に判断できる力・課題を発見し解決する力・地域社会と協働し貢献できる力 ・自ら考え、主体的に判断し、自立した行動ができる児童生徒 ・豊かな心を持ち、お互いを尊重し、人を大切にできる児童生徒 ・CSをベースにした児童生徒の実態把握を意識した授業研究及び教科等部会の取組 ・家庭での効率的な学習計画の立て方・メディアとの付き合い方への取組 ・地域と協働した合同行事や乗り入れ授業、「総合的な学習の時間」交流会の取組
---	--	---	--

III 自校

ミッション 福山市のリーダー校として、学びの変革を推進し郷土福山を愛する生徒を育て、地域・保護者から信頼される校区・学校にする。また、基礎的学力の定着や自ら考え学ぶ生徒を育てるとともに、心の育成を図り、城北中生徒としての品格と誇りを身につけ、「夢を実現できたのは城北で学んだから」と評価される学校をめざす。学びに向かう力・学び続ける力を育成する学校教育の推進。	育成する資質・能力 めざす子ども像	主体的に判断できる力 根拠を持って、正しい判断をしている。 よりよい解決のため、いろいろな見方や考え方をしている。	課題を発見し解決する力 見出した課題を、自ら解決しようとしたり、他者と協力して解決しようとしたりしている。	地域社会と協働して貢献できる力 地域の課題に自ら目を向け、自分にできることはないかを考え行動している。
学校教育目標 生徒の主体性と自律性を育み、地域社会に貢献する生徒の育成				
現状 <児童生徒> 【成果】 全国学力学習状況調査において、国語・数学ともに正答率は市平均を上回ることができた。 【課題】 全国学力学習状況調査において、正答率40%未満の生徒の割合が数学は市平均よりも1.6%高かった。 <授業> 【成果】 福山市教育委員会からの結果分析取組シートにおける全国学力学習状況調査の生徒質問紙の肯定的割合の数値が市平均を上回ることができた。 【課題】 全国学力学習状況調査の生徒質問紙29「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。」に課題が見られた。	研究 テーマ 内容等 めざす授業の姿	生徒の実態を把握し、「ことば」と「数」にこだわった授業づくり 基本的な知識や基礎学力を定着させ、生徒自身のやる気やモチベーションのアップにつなげる。(特に正答率40%未満の生徒の学力向上につなげる。)	<input type="checkbox"/> 各教科の今自分に必要な知識や技能について判断できる。 <input type="checkbox"/> 各教科の知識や技能について、理解できる。 <input type="checkbox"/> 課題解決に向け、最後まで粘り強く課題解決のための方法を見出すことができる。 <input type="checkbox"/> 関心・意欲を持って課題を見出し、課題解決の方法を考えられる。 <input type="checkbox"/> グループやペア等の活動を通して、協働的に課題解決に臨んだり、他者の考えをもとに自らの考えを広げたり深めたりする場面が設定されている。	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立城北中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	力 _セ 評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力 _セ 評価	達成評価	総合評価	改善方策
2	自ら考え学ぶ生徒(主体性)の育成	★	継続	主体的に学ぶ意欲・態度の向上	○授業において、わからないことを早期発見して、改善方法を選択させる。 ○実技教科とリンクさせ、横断的な学びを創造する。	○生徒アンケートにおいて、主体的に学ぶ意欲・態度に係わる質問項目の肯定的評価の割合を80%以上にする。	○生徒アンケート「課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだか」肯定的評価87.7%であった。 ○全国学力学習状況調査の生徒質問紙「分からないことや詳しく知りたいことがあったとき自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」肯定的評価75.5%と県平均78.3%より低い値となった。	3	3	○課題解決に向けて自分で考え取り組むことはできているが、分からないことを自分で学び考えることは課題がある。今後も教科会で授業実践を共有して、基礎学力を高めるさせる。そして、難しい問題にも積極的に取り組んでみようという意欲につなげる。	○生徒アンケート「課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだか」肯定的評価86.9%。また、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるように、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していたか」肯定的評価72.3%だった。	3	3	3	課題を実生活とつなげたり、自ら考え取り組むことはできているが、発表することを苦にしている生徒が多い。全員発表を意図的に仕組んだり、簡単な問題を自分の言葉で発表させるなど、教員同士が計画立てる。
	自ら考え学ぶ生徒(主体性)の育成		継続	○全国学力・学習状況調査において、個別の課題について分析し、校内研修において後期の学習計画を立て、それをもとに生徒面談及び授業改善を行う。	○全国学力学習状況調査の正答率において、全教科市平均以上にする。 ○全国学力学習状況調査の正答率40%未満の割合を、全教科市平均以下にする。	○全国学力学習状況調査の正答率において、全教科市平均以上にする。 ○全国学力学習状況調査の正答率40%未満の割合を上回ることができた。 ○正答率40%未満の生徒の割合は集計中である。	5	4	○研究主任を中心とし、各教科で例年の課題を意識し、指導にあたった成果だと思われる。改善方策というより、引き続き取り組んでいきたい。 ○正答率40%未満の生徒を具体的に意識し、授業を行うように研修を行う。	○夏休み時に、第1回福山市学力学習状況調査の結果を分析し、各教科各クラスの誰が具体的に正答率40%未満に該当するか確認し、その生徒にスポットをあてた授業改善を促す研修を行った。第2回の結果をまた同様にしていきたい。	4	4	4	○数学科を中心に、単に学力調査の結果のみならず、どういった授業改善が結果に繋がっているのかの過程を大切にできている。こうした過程や結果を意識した授業改善を他の教科にも広げていく。	
	自律的に行動できる生徒の育成		継続	○生徒会を中心とした生徒主体の学校運営の実施。(自治活動、縦割り集団を軸とした学校行事等) ○気持ちの良いあいさつが自発的にできる、地域から信頼、応援してもらう生徒を育成する。	○生徒アンケートにおいて、「学校行事について、自分の役割を自覚し、主体的に行動しています」「自分からあいさつをしています」の項目の肯定的評価を90%以上にする。	○「学校行事について、自分の役割を自覚し、主体的に行動しています」の項目は90%、「自分からあいさつをしています」の項目は86%であった。あいさつについては、若干低い数値になっているが、あいさつを返すことはほぼ100%できている。	3	3	○生徒会と連携し、生徒が自立的に活動できるような日常生活に即した活動を実施する。 ○あいさつについては重点課題として全教職員が意識して指導する。特にいつも行う授業前後のあいさつなど何気ないところからアプローチしていく。	○「学校行事について、自分の役割を自覚し、主体的に行動しています」の項目は89%、「自分からあいさつをしています」の項目は86%であった。あいさつについては、上半期同様の数値になっているが、3学期はあいさつを重点目標として取り組み、改善され始めている。	3	3	3	○新生徒会と連携し、生徒が自ら課題に気づけるような自立的に活動を計画・実施する。あいさつについては重点課題として、まず授業の開始・終了のあいさつに着目して全教職員が意識して指導する。職員研修等を活用して、意識統一とモデルづくりを実施した。	

2	教職員の資質・能力の向上	★	継続	専門教科の授業力の向上	○教科会や職員研修等で個々の教材研究や実践を共有しあう。 ○校内巡回を通して、授業実践の学び合いや生徒の実態把握を通じた授業づくりをする。	○教職員アンケートにおいて、「教職員が、子どもが自ら学ぶ授業づくりにあてる時間を確保できている。」の項目の肯定的評価を85%以上にする。	○教科会や校内巡回を適宜行い、実践を交流した。 ○ただし、全国学力調査の生徒質問紙「先生は分かるまで教えてくれているか」県平均84.8%に対し本校90.6%であり、生徒との直接のやりとりは大切にして取り組んでいる。	3	3	○単元ごとのまとめりや生徒の理解の様子などを踏まえた指導を行えるよう、校内巡回や各教科会の内容をより充実させる。	○生徒アンケートにおいて、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができるか」肯定的評価88.0%だった。	3	3	3	○研修や教科会などで、学ぶための動機を教員同士で話して、授業に取り組んでいる。また、単元ごとに分かりやすい目標を設定するなど生活に生かしやすい内容にしている。
			継続	教職員の資質・能力の向上	城北中学校区小中一貫教育の研修を通じた授業力の向上を図る。各教科のグループに分かれて、小学校の学びを中学校へ繋げていくとともに、中学校でのつまずきがどこからきているのか検討し、個に応じた授業づくりを進める。	○福山教育アンケートにおいて、「人はどのように学ぶか、何につまずくかについて関心を持ち、教材研究を行っている。」の質問項目の肯定的評価を90%以上にする。	○第2回小中合同研修会時に城北中学校の授業を参観し、生徒の実態把握と小中研修の目的を確認した。 ○福山教育アンケートにおいて、「人はどのように学ぶか、何につまずくかについて関心を持ち、教材研究を行っている。」の質問項目の肯定的評価は91.2%だった。	4	3	○校区の小学校2校合同の小中合同研修を2回設定している。校区の児童の実態を把握し、小学校の学びを中学校へ繋げていきたい。	○今年度また新しい形で城北中学校区小中一貫教育に取り組んだ。振り返りアンケートでの肯定的回答は78%(88人中66人)だった。評価が正直難しいので、来年度も今年度の反省を活かしながら一応はこの形で進めていきたい。	3	3	3	○第5回城北中学校区小中一貫教育研修会後の振り返りアンケートを88人分読ませてもらい、全員分の希望や要望には応えてはいけませんが、可能な限り改善し、小中交流をより充実させていきたい。
			継続	生徒指導の4つ視点（自己決定・自己存在感・共感的人間関係、安全安心な風土）を見据えた、生徒指導力の向上	○校内研修において、個々の生徒に寄り添う生徒指導をめざし、細やかな生徒交流やSCによる研修など、生徒指導部主催による研修等を定期的実施する。	○教職員アンケートにおいて、「一斉研修で学んだことを、日々の授業実践に生かしている」の項目の肯定的評価を90%以上にする。	「一斉研修で学んだことを、日々の授業実践に生かしている」の項目は82%、「研修により新しい発見や取組を見直すことができる」の項目は94%であった。研修に対して前向きな姿勢である。	3	3	○研修内容を精選し、生徒理解や支援につながる充実した研修を実施する。 ○研修した内容を定期的に振り返ることができるよう、資料を視覚化したり、記録として残したりするなど、実践に活用できるようにする。	「一斉研修で学んだことを、日々の授業実践に生かしている」の項目は82%、「研修により新しい発見や取組を見直すことができる」の項目は94%であった。研修に対して前向きな姿勢であり、教職員主体で課題設定する研修も実施できた。	3	3	3	○研修内容を精選し、生徒理解や支援につながるように、教職員が主体的に課題設定をするような充実した研修を実施する。研修した内容を定期的に振り返り、相互の会話の中から、実践に活用できるような職員室の雰囲気作りにも配慮する。
2	地域に貢献する学校		継続	本校の取組や活動の地域への発信	○学校日より、学年日より、保健日より、HP、メール配信及び行事等において、本校の取組みや活動に関わる情報発信を積極的に行う。	○保護者アンケートにおいて、「通信等で学校の情報は適切に発信されている」の項目の肯定的評価を80%以上にする。	○各種たより及びHPは月1～2回以上発行（更新）している。	3	2	○学校日より、学年日より、HP等を定期的更新し、情報を発信していく。 ○学校関係者評価会議において意見をいただき、後期に生かしたい。	○各種たよりを月1～2回以上発行（更新）している。 ○HPの更新をしていないときは、「すぐる」を使い、保護者へ発信できている。	3	3	3	○総合的な学習の時間などで、学校外の人と交流したり、部活動などで地域の行事に参加したりなど、その取り組みを通信や、スグールなどで配信を行う。

		継続	地域に貢献する学校	総合的な学習の時間の前期の単元において、全学年で「地域理解・社会貢献学習」を行い、地域の方々と共に学習を深める場を設定する。	○生徒アンケートにおいて、「総合的な学習の時間の学習」を通して、地域に貢献したいという気持ちが高まりましたか。」の質問項目の肯定的評価を80%以上にする。	○生徒アンケートにおいて、「総合的な学習の時間の学習」を通して、地域に貢献したいという気持ちが高まりましたか。」の質問項目の肯定的評価は78.7%だった。	3	3	○2年生のチャレンジウィークにおいて、地域の方々にお世話になっているので、引き続き関係を築いていく。	○今年も様々な場面で、地域や保護者の方々の協力を得て、実行できるものがあった。それと同時にもっと学校側と協力すればよいと思える場面もあった。OS導入初年度で難しかったが、次年度は充実させていきたい。	2	2	2	○どこまで協力を求めているのか分からないが、学校側がもっと地域や保護者の方々に向けて学校運営の扉を開けて、地域や保護者の方々の支援を求めていけたらよい。
		継続	集団の一員としての自覚を高め、責任感を育成	○学校内での美化活動に主体的に取り組めるよう、毎日の清掃や環境整備を委員会活動や学活等で喚起し、美化意識を推進するとともに、環境や物を大切にしようとする姿勢を育成する。その中で校内や地域の環境整備、環境美化を充実する。	○生徒アンケートにおいて「一生懸命清掃しています」「学校のものや環境を大切にしています」の項目は97%とどちらも高い数値になっている。	○「一生懸命清掃しています」の項目は91%、「学校のものや環境を大切にしています」の項目は97%とどちらも高い数値になっている。	5	5	○引き続き生徒会を中心に、生徒の美化意識の向上を図り、環境美化に努めさせる。 ○教職員の環境点検も継続して行う。	○「一生懸命清掃しています」の項目は93%、「学校のものや環境を大切にしています」の項目は98%とどちらも高い数値になっており、学習や活動に集中しやすい環境づくりは充実したものになっている。	5	5	5	○引き続き生徒会を中心に、生徒の美化意識の向上を図り、環境美化に努めさせる。来客の方の学校環境への好印象などを生徒に伝え、達成感や満足感も高める。また、教職員の環境点検も継続して行う。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。